

# 輸出事業計画

※申請者名：有限会社コーシン、品目：豚肉・豚肉加工品

## 1. 輸出における現状と課題

### 【輸出における現状】

#### 1. 国内市場の成熟と新たな需要開拓

日本国内の豚肉市場が成熟し、国内需要の伸びが限られている中で、海外市場を開拓することを成長戦略として重要視している。

#### 2. 海外の日本産豚肉への関心の高まり

日本の豚肉は高品質で安全性が高く、特にアジア圏（香港、ベトナム、台湾など）や欧米での需要が増えていることが、輸出を検討するきっかけになった。

#### 3. 平成30年1月農場HACCP認証取得

安全性の確保、生産性の向上及び衛生管理の改善を目的に取得。国内の販売先へのセールスポイントとしても生かすことができている。

### 【輸出における課題】

#### 【生産（製造）】の課題

①大ロットで輸出できるよう生産量を確保するため、生産地域において耕畜連携を拡充するとともに、繁殖飼育施設を増設する必要がある。

#### 【加工】の課題

①熊本県内にはベトナム向け食肉を取り扱う認定施設が1か所しかなく、商品の注文があったときにすぐ対応できない。

②自社の方針に沿った輸出にも対応できる加工場の確保

#### 【流通・販売】の課題

①ベトナムの市場状況やニーズ、流通状況などを的確に把握する必要がある。

②自社ブランド「香心ポーク」の知名度はまだ低く、競合他社との違いや付加価値を十分に打ち出せていない。

## 2. 輸出事業計画の取組内容

### 【生産（製造）】の取組

①生産地域における耕畜連携の拡充と畜産クラスター組成を行い設備機器のリース事業の補助要件を確保して、母豚650頭まで増頭する。（R4 580頭、令和8年までに実施）

### 【加工】の取組

①注文に対応できるよう認定施設での屠畜の枠を確保する。

②熊本県内に輸出にも対応できる自社ハム・ソーセージ工場の新設計画を推進する。

（ベトナムの輸入規制の状況を見ながら取り組む。）

### 【流通・販売】の取組

①日本国内のみならず、ベトナム現地法人等と連携するプロジェクトの運営委員会により、定期的なオンライン会議を開催し、ベトナム国内の現状の共有、課題改善の検証を行う。また、ベトナム国内の高級リゾートホテルやレストランとの商談会やテスト販売を行い、ベトナム国内でのニーズや流通を把握する。

（令和7年までに実施予定）

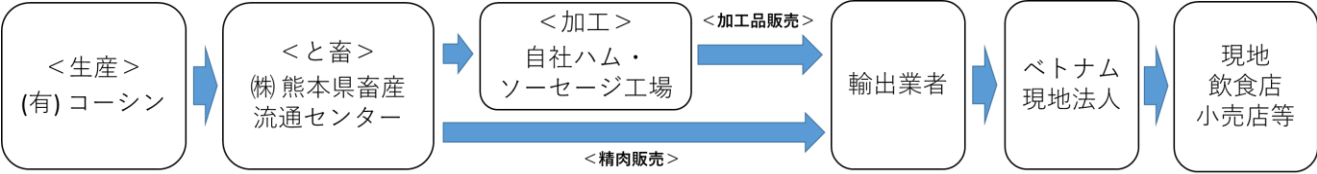
②輸出先国のニーズに応じたPRポイント（安心・安全・美味しさなど）を整理し、適切な販促活動を行う。

③新設するハム・ソーセージ工場から出荷する製品については、既存自社ブランド（香心ポーク）と別の海外向けブランディングを目指す。（令和8年までに実施）

# 輸出事業計画

※申請者名：有限会社コーシン、品目：豚肉・豚肉加工品

## 3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



ベトナム現地法人等と連携するプロジェクトの実行委員会において、定期的なオンライン会議を開催し、ベトナム国内の現状の共有、課題改善の検証を行う。

## 4. 輸出目標額

| 豚肉      | 現状<br>(令和4年度) | 目標<br>(令和8年度) |
|---------|---------------|---------------|
| 輸出額(千円) | —             | 57,000        |
| 輸出先国    | —             | ベトナム          |

| 豚肉加工品   | 現状<br>(令和4年度) | 目標<br>(令和8年度) |
|---------|---------------|---------------|
| 輸出額(千円) | —             | 6,000         |
| 輸出先国    | —             | ベトナム          |